

一般市民を対象にした「緩和ケア」に関する認識度調査

(平成22年度調査)

報 告 書

平成23年3月

NPO法人 日本緩和医療学会

厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業 Orange Balloon Project」



報告書目次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	8
1	あなたご自身のことについて	9
	(1) 自分自身のがんの経験の有無	9
	(1) - 1 一番最初のがんと診断された時期	10
	(1) - 2 がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無	11
	(2) 現在の通院状況	12
	(3) 医療職・非医療職別	14
2	あなたのご家族について	16
	(1) 家族の中のがん経験者の有無	16
	(1) - 1 家族の中のがん経験者との関係	18
	(1) - 2 家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無	20
3	緩和ケアについて	22
	(1) 「緩和ケア」という言葉の認知	22
	(1) - 1 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路	25
	(2) 「緩和ケア」を受ける時期の認識	28
	(3) 居住地にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知	31
	(3) - 1 「緩和ケア」が受けられると思う場所	34
	(4) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知	36
	(5) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無	39
4	「緩和ケア」情報について	42
	(1) 「緩和ケア」について知りたい情報	42
	(2) 「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段	46
5	医療用麻薬について	50
	(1) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知	50
	(2) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知	53
	(3) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感	56
6	「オレンジバルーンプロジェクト (Orange Balloon Project)」	59
	(1) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知	59
	(1) - 1 「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路	62

7	緩和ケアの各項目についての認知	63
	(1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する	64
	(2) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる	67
	(3) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる	70
	(4) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている	73
	(5) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない	76
	(6) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない	79
	(7) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる	82
	(8) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善するといわれている	85
8	「オレンジバールンプロジェクト」に期待すること	88
Ⅲ	自由回答一覧	92
Ⅳ	調査票（単純集計結果付）	131
Ⅴ	2010年度メンバー紹介	138